

第7回シンポジウムの開催報告（5月17日開催）

研究普及委員会 委員長 宮川裕之

2014年5月17日（土）に第7回シンポジウム『ビッグ・データの現状と情報社会への影響～情報システム学の意義を踏まえて～』が専修大学 神田キャンパスで開催されました。

今回のシンポジウムでは、「ビッグ・データ」がITベンダーのマーケティングや情報システム部門の在り方さらには社会に与える影響や、その課題について、情報システム学の視点も踏まえた議論をしました。

井上氏からはユーザ調査を通して見えてきた「ビッグ・データ」の現状やITベンダーへのインパクトについてご講演いただくとともに、伊藤氏からは、本学会が刊行した「新情報システム学序説」で謳われている情報システム学の意義についてご講演いただき、パネルディスカッションではフロアーの方々も交えて活発な議論が展開されました。

今回は昨年度よりも多く、非会員1名を含む55名が参加されました。

今後も会員の皆様のご期待に添えるようなシンポジウムを企画したいと考えております。

講演1：「ビッグデータブーム」が引き起こすIT業界の地殻変動

井上健太郎氏（日経BP総合コンテンツ事業部）

講演2：情報システム学の目指すこと

－「新情報システム学序説」の刊行をとおして－

伊藤重隆氏（みずほ情報総研、本学会会長）および

新情報システム学体系調査研究委員会委員

パネルディスカッション：

パネラー：井上健太郎氏、伊藤重隆氏

司会：宮川裕之氏（青山学院大学社会情報学部、本学会副会長）